

事例15

< 事例概要 >

- ・ 70 歳代、高血圧、糖尿病の患者。BMI 19.2 kg/m²。
- ・ 約 2 年の病歴を有する発作性心房細動に対し、クライオバルーンカテーテルを使用しアブレーションを実施。
- ・ 鎮静薬投与後、いびき様呼吸となり非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）を開始した。クライオシースにクライオバルーンカテーテルを挿入した際に大量の空気が吸引され、空気抜きを繰り返した。クライオシースの先端が右房へ移動したため、クライオバルーンカテーテルとガイドワイヤーを抜去し、ガイドワイヤーを再挿入したところ、透視で肺静脈内への空気混入、心電図でST上昇を認めた。冠動脈造影で冠動脈内と左室心尖部に空気混入を認め、冠動脈内の空気吸引と大動脈バルーンパンピング（IABP）を実施した。全身CT検査で脳の多発性空気塞栓と右気胸を認め、治療 18 時間後に死亡した。
- ・ 死因は、空気塞栓。解剖有、死亡時画像診断（Ai）無。